

音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設

管理運営指針

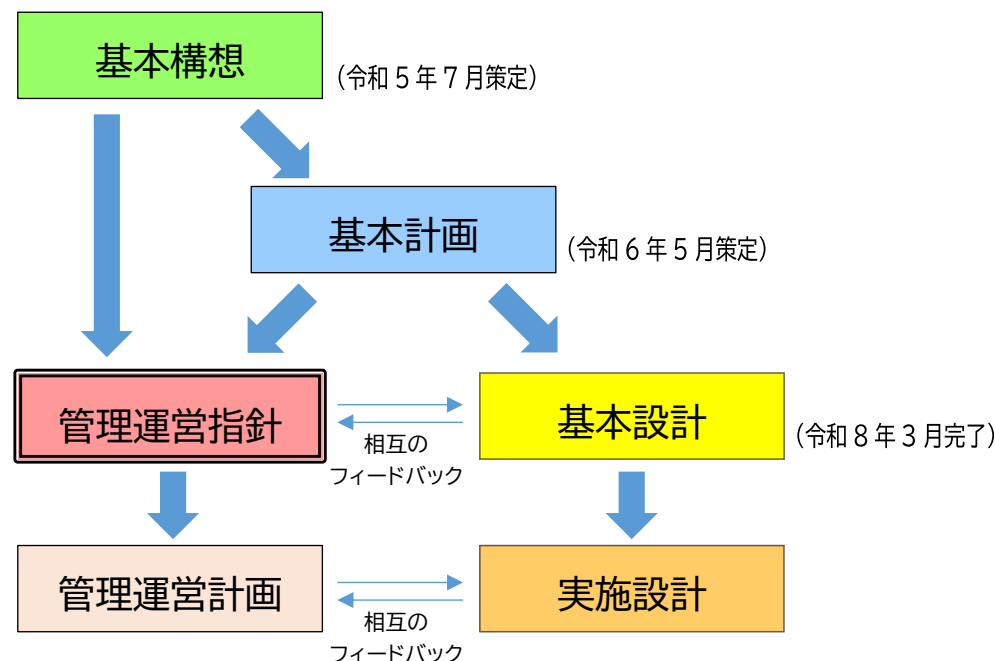
【概要版】

令和 8 年3月

仙 台 市

<管理運営指針の位置づけ>

- 複合施設全体の管理運営に係る基本的視点や、事業、広報・マーケティング、施設運用、組織体制、収支と社会的効果に関する方針・考え方について記載。
 - 施設の運営に関するより詳細・具体的な事項については、今後策定する管理運営計画において定める。
- ☞ 本指針の内容を基とし、市民・関係者の意見を伺う機会を設けながら、施設の実施設計と並行して策定



<基本構想・基本計画で定めた基本理念・基本方針等>

基本理念	<p>人・文化・まちを育む創造の広場</p> <p>～文化芸術と災害文化がつなぐ 人と人、過去と未来、仙台と世界～</p>
目指す施設像	<p>①人と人との交流を通し、新しい文化的価値が生まれる場</p> <p>②過去に学び未来を創る、新たな都市文化の創造・発信の場</p> <p>③文化のネットワークを形成し、多くの人々が訪れたくなる場</p>

<複合施設のあり方・管理運営の基本的視点>

文化芸術の総合拠点

「文化」を仙台の都市個性の新たな核に

- ・施設が主体となった創造発信で仙台に新しい文化芸術の市場を開発
- ・文化芸術による社会課題へのアプローチを推進

2つの
分野の
融合

災害文化の創造拠点

困難から立ち上がる力を育む

- ・次の災害に備え、それを乗り越えるための知恵や術を文化として確立
- ・その価値を国内外に広く発信し、世界へ貢献

市民共創

「人」を基盤とする施設経営

●青葉山を核とした交流人口の拡大

- ・コンテンツや建築の魅力を生かし、青葉山エリア全体の求心力を向上させ国内外より人を呼び込む

●一人ひとりが幸せや生きがいを感じる、より良い地域社会の実現(ウェルビーイングの実現)

- ・文化の力により、市民が幸せや生きがいを感じる地域社会の実現に寄与

●多様性が尊重され誰もが輝ける社会づくり(ダイバーシティの推進)

- ・年齢、心身の特性、社会的文化的背景等に関わらずあらゆる人に体験や学びの機会を届ける

●未来を担う世代の育成

- ・こどもたちや若い世代の感性を育み、創造性や考える力、災害を乗り越える力を高める

●シンボル性の発揮と都市ブランドの向上

- ・新しい価値を創造し、世界に発信することにより、仙台のブランドを向上させる

暮らしとまちを豊かで強靱にし、国内外から
多くの人を惹きつける「選ばれるまち仙台」を実現

<事業>

(1)連携・協働事業

事業実施において重視する視点	主な想定事業
<ul style="list-style-type: none"> ・「3.11」などの特別な日の共有 ・誰もが気軽に訪れ、活動する場所となること ・文化芸術と災害文化の交わりによる文化の可能性の拡張 ・青葉山エリアの魅力と都心部等への回遊性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・3.11メモリアルプロジェクト ・広場イベント ・震災の記憶の継承などに寄与する文化芸術プログラム ・文化芸術を介した地域づくり ・未来を切り開くトライアル事業 ・エリア内コラボレーション、回遊性促進企画

(2)文化芸術事業

《事業の4つの方針》

創造

活力

発揮

育成

事業実施において重視する視点	主な想定事業
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の特徴を生かした事業展開 ・市民参画機会の充実と実践を通じた人材育成 ・レジデントオーケストラとの連携・協働 ・総合的なマーケティング ・社会包摂(インクルージョン)の視点 ・他施設・団体とのネットワーク構築 ・公演記録や地域の文化資源の情報の集積 ・先端技術の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・良質な舞台芸術作品の上演 ・市民参加型の作品創造 ・将来世代の育成 ・インクルーシブ公演 ・地域に根差した作品・実験的作品などの制作・上演 ・広域交流につながるイベントの開催促進 ・ワークショップ・アウトリーチの展開 ・文化芸術を介した地域づくり(連携・協働事業より再掲) ・共生社会共創の基盤づくり

(3)災害文化事業

《事業の4つの方針》

認知

創造

実装

発信

事業実施において重視する視点	主な想定事業
<ul style="list-style-type: none">・施設の特徴を生かした事業展開・文化芸術の力を生かす・「災害文化」を常に問い直す・過去を未来につなげる・意識や行動の変化につなげる・多様な交流とネットワークの拡大・文化・伝承施設や学術機関等との連携・記憶の将来世代への継承と活用	<ul style="list-style-type: none">・記録・資料を未来につなぐアーカイブプログラム・参加型の制作・上演プログラム(連携・協働事業より再掲)・くらしと結びついた災害文化の日常化プログラム・沿岸部と中心部の相互交流プログラム・市民の活動の支援と顕彰・調査研究・ジャーナル発行・国際発信に向けた交流・フォーラム事業

<広報・マーケティング>

- 情報発信の枠を超えた関係形成のためのコミュニケーション
- ブランディング戦略の重視
- オウンド・メディア(Web サイト、メールマガジン、会報誌など施設が保有・管理するメディア)と SNS の活用
- 仙台の文化芸術の新たな市場を開発する創客マーケティング
- 価値を共創し、共感層を広げるマーケティング
- 会員組織の構築

<施設の運用>

(1)施設運用の基本的方針

- 来館者との間に信頼関係・価値を共に創り上げていく関係の構築を目指す「トータル・ホスピタリティ」
- 多様な創造活動を支える拠点、誰もがいつ来ても居場所がある、出会いがある「みんなの広場」
- 青葉山エリア全体の魅力や利便性、都心部・沿岸部なども含めた回遊性の向上への寄与
- 年齢、心身の特性、文化的社会的背景に関わらず、誰もが快適に施設を利用できるサービス体制

【開館日・開館時間】

施設・設備の定期点検のための休館日(月 2 日程度)を除き、基本的に年間を通じて開館
開館時間については、午前 9 時から午後 10 時を基本とすることを想定

※災害文化エリアの一部の諸室や機能については上記と異なる開館時間の設定を検討

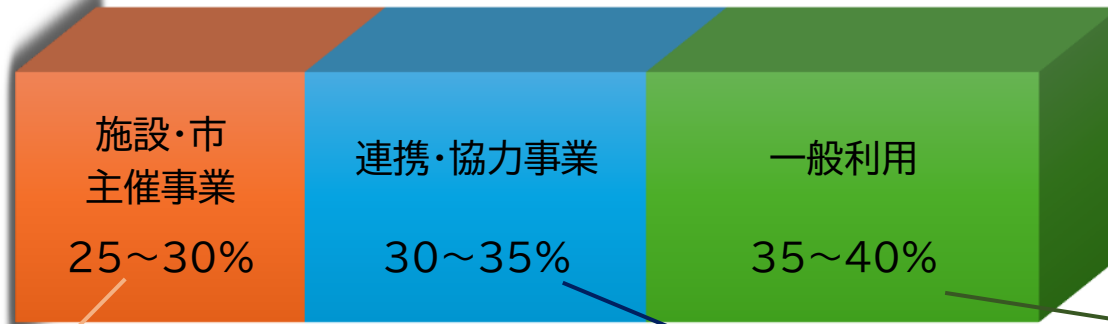
※駐車場については、開館日・開館時間外でも利用が可能となる対応を検討

(2)ホールエリア・文化芸術エリアの運用

【貸館について】

- 「市民利用施設予約システム」とは異なる独自の予約方式の導入を検討
- 申込受付開始時期、先行予約の基準、連続利用の考え方等については今後具体的に検討
- 連携・協力スキームの活用で、本施設が目指す施設像に合致する企画の開催を戦略的に促進
- 大ホールの舞台転換(コンサートホール形式⇔プロセニウム劇場形式の転換)は貸館時間外に実施
- 大ホール・小ホールの準備・撤収のための延長利用(早朝・深夜)の導入を検討

【大ホールの利用想定】



- ◎年間稼働日数335日程度、利用率90%程度
- ◎コンサートホール形式・プロセニウム劇場形式の利用割合の想定…6:4程度
- ◎3年に1回開催される仙台国際音楽コンクールは上記に含まない(約40日間使用)
- ◎施設主催事業や学校行事などにおいて、平日の稼働の促進を図る

- ・多様なジャンルの良質な公演
- ・市民参加型作品創造
- ・裾野拡大の企画(ランチタイムコンサートなど)
- ・メモリアルコンサート
- ・市主催事業(仙台クラシックフェスティバル、青少年芸術鑑賞会など) など

- ・仙台フィル演奏会
- ・人を呼び込むコンテンツの招聘等
- ・目指す施設像に合致する企画への連携・協力
- ・文化芸術の広域的大会
- ・大規模学会 など

- ・市民文化団体や民間主催者による文化芸術公演
- ・校内合唱コンクール等の学校行事 など

【使用料の考え方】

- 施設・設備・サービスの水準、市民の多様な活動を支える拠点という本施設の役割、持続可能な施設運営を図る観点、受益者負担の考え方、周辺施設とのバランスなどを総合的に勘案し、今後制定する条例・規則において設定

【その他】

- レジデントオーケストラ(仙台フィルハーモニー管弦楽団)との連携・協調
- レセプションист(ホールの接客対応などを行う人)の養成・配置
- 周辺施設との連携(青年文化センターなど市内文化施設、宮城県立劇場や周辺自治体の文化施設)

(3)災害文化エリアの運用

【展示エリアの運用方針】

- 展示エリア(常設展示・企画展示)は、災害の記録や教訓を一方向的に「伝える」場ではなく、来館者一人ひとりが、自ら考えるきっかけを得る場として運用
- 災害文化が常にアップデートされ続ける構成とする
- 展示内容の受け止め方の多様性に配慮した、来館者が自身の距離感で関わるることができる空間づくり

【その他】

- 工作工房、ゲートウェイスペース、市民活動スペース、多目的交流スペース、アーカイブライブラリーの各諸室は、それぞれの特色を生かし、有機的に連携しながら、学びや対話、創造的な活動が生まれる場として運用
- 多目的交流スペースや工作工房などの占有利用の考え方については今後制定する条例・規則において定める
- 周辺施設との連携(本市の沿岸部拠点、市内外の災害伝承施設、大学・研究機関、防災関係機関など)

(4) 広場エリアの運用

【交流イベントロビー】

- 誰もがいつでも訪れ、憩い、様々な催しを楽しめ、多様な出会いや交流が生まれる空間
- 市民発の多様なアイデアの実現の場

【屋外広場】

- 交流イベントロビー同様、誰もが気軽に憩え、多様な主体との連携・協働のもと様々な催しが展開される場
- 野外ステージを有しキッチンカーを展開できる空間、青葉山エリア全体の魅力・賑わいの創出に寄与

【クワイエットスペース】

- 心を落ち着け、大切な人やあたりまえの日常に静かに想いを巡らすことができる常設のスペース
- 他者と場を共有しながらも一人になれる距離感と静穏性を重視

(5) 各種事項

【来館者サービス】

- 総合インフォメーション・情報コーナー・チケットカウンターの設置、ショップ機能に関する検討
- カフェ・レストラン(大ホール公演時のビュッフェ運営、楽屋エリア等への弁当・ケータリングの提供も担う)
- おむつ替え・授乳のためのスペース、託児室(貸館公演時には公演主催者にスペース提供)
- クローク(基本的に大ホール公演来場者用として運用)、コインロッカー

【その他】

- 文化芸術の広域的な大会等への対応(施設の優先予約、貸館施設以外の空間の占有利用など)
- 大規模学会の仙台国際センターと連携した開催、MICE 環境向上のための連携協力
- 建築物としての魅力の訴求・ナイトコンテンツ化
- 災害発生時における施設の役割、長期的視点に立った計画的維持管理

<運営体制>

(1)運営体制

- 多様な専門的人材の登用、協力関係の構築および長期的視点に立った育成
※事業部門の責任者(例:芸術監督、プロデューサー)、舞台技術部門の責任者(技術監督)など
- 市民意見や専門的知見を取り入れる仕組み(例:運営協議会、モニター制度)

所管分野	主な業務内容
総務・経営	総務、経営計画・評価、施設広報
施設管理	貸館許可・調整、建物・設備管理、総合案内、館内サービス
舞台技術	舞台設備の管理・運用、舞台技術支援
文化芸術事業	「創造」事業の実施(公演企画制作、調査研究など) 「活力」「発揮」「育成」事業の実施(プログラム開発、人材育成など) 営業・マーケティング
災害文化事業	「認知」「創造」「実装」「発信」事業の実施(アーカイブ※運用、展示、市民研究支援、ワークショップ・フォーラムの企画・実施、情報発信など)

連携体制
の構築

(2)指定管理

- 複合施設全体として単一の指定管理者を置く方針とする
- 公募によらない選定とする方向で検討し、市と指定管理者が連携した開館準備を早期から進める
- 指定管理者の多角的な評価の手法(自己評価、設置者評価、外部評価)について検討

<収支と社会的効果>

(1)収支

- 他都市の類似施設の運営状況等を参考に試算した、施設の大まかな支出額の想定は約 18 億円（維持管理費約 8 億円、人件費約 5 億円、事業費約 5 億円）
- それに対する財源としては、施設の使用料収入約 2 億円、事業収入（チケット収入、補助金等）約 2 億円のほか、協賛金・寄付金等の外部資金獲得を見込む
- 収支見込額について今後さらなる精査を進めるとともに、設置者たる行政と指定管理者の双方において外部資金の獲得（ファンドレイジング）に取り組み、施設の活動の充実や指定管理料の縮減に努める

◎設置者における外部資金獲得 … ネーミングライツ、ふるさと納税制度の活用など

◎指定管理者における外部資金獲得 … 補助金・助成金の獲得（全国トップクラスの文化施設を対象とする「劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業」の将来的な獲得を目指す）、スポンサー制度、賛助会員制度、クラウドファンディングなど

(2)社会的効果

【年間来場者数と経済波及効果の推計】

- 来場者数見込（年間） … 約 72 万人
- うち県外来場者数見込（年間） … 約 11.8 万人
- 県内の経済波及効果（年間） … 約 87 億円

施設の魅力を最大限に活用し観光施策と連携することで、観光消費額が大きい県外来場者数及び宿泊者数の拡大を図っていく

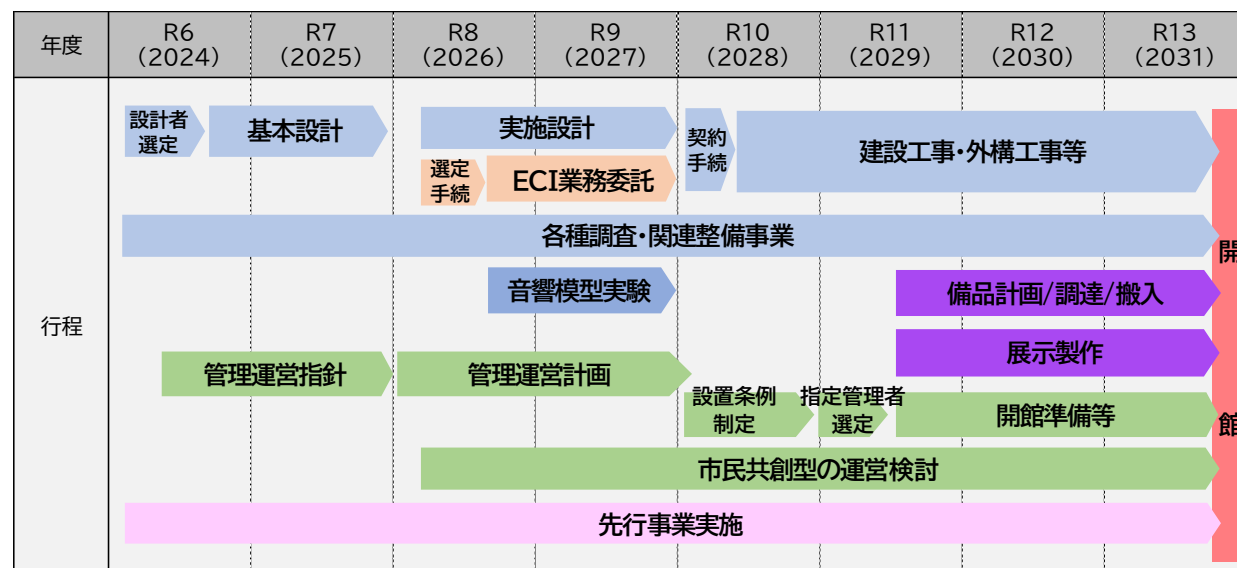
- ・施設としての取組み：魅力的なコンテンツの開発、新規の顧客を戦略的に増やしていく取組み、建築物の個性を生かす取組みなど
- ・青葉山エリア全域および全市的な観光振興の取組み：ナイトコンテンツ整備、複数施設の周遊促進、観光消費促進、大規模会議誘致など

【多様な社会的効果の創出】

- 困難から立ち上がる力の涵養、ウェルビーイングの実現とダイバーシティの推進、将来世代の育成、都市ブランド向上など社会に対する多様な価値を創出し、総体として、投入する公的資金を上回る効果の発揮を目指す
- 効果の可視化を重視し、定期的な効果測定に取り組む

<開館に向けたロードマップ>

(1) 施設整備スケジュール



(2) 開館に向けたソフト面の取組み

- 市民や有識者が参画し意見・知見を持ち寄って議論する市民共創型の運営検討
- 事業モデル構築と機運醸成の取組み

(3) 開館記念事業

- 開館後 1～2年程度をかけて、多様なプログラムから成る開館記念事業を展開する方向で検討

(4) 施設名称について

- 本施設の理念や目指す施設像を踏まえた正式な施設名称を検討し、設置条例を定める段階で決定
- 「音楽ホール」「中心部震災メモリアル拠点」という呼称についても、仙台の文化芸術の総合拠点、災害文化の創造拠点というそれぞれの特質や、施設としての一体性の観点を踏まえ、あり方を検討
- 愛称やネーミングライツを導入するかについてもあわせて検討